

男性職員による育児に伴う休暇の取得について

大池 光央

九州地方整備局 大分河川国道事務所 中津維持出張所(〒871-0012 大分県中津市宮夫無生 227-2)

政府全体で男性職員の育児参加が推進されている現在、その為の制度も拡充されている。第二子の誕生に際し、育児のための休暇を取得し育児参加した実感を、体験談を交えて報告する。

キーワード 働き方改革 男の産休 育児休業 出産 育児参加

1. はじめに

本稿は「男性職員による育児に伴う休暇の取得」について、職場を離れ、ひと月育児に専念した時に得られた知見を報告するものである。結論として最も強調したいのは「家族の為、制度をフルに使い倒す」ところにある。なぜこの結論に至ったか、「制度」「育児休暇を経て得られた実感」二つの面から紐解いていく。

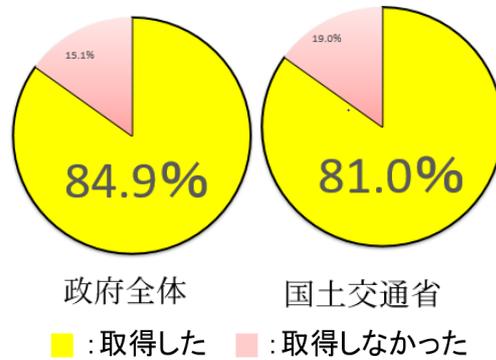


図-1 「男の産休」取得率

2. 制度面について

制度の面からは「男の産休」「育児休業」の二点に大きく分けて解説する。

(1) 男の産休

「男の産休」とは、配偶者出産休暇(2日)と育児参加のための休暇(5日)の合計7日間の有給休暇を指す。

一般職国家公務員で「男の産休」を合計5日間以上取得した男性職員は、政府全体では84.9%、我々国土交通省は全体で81.0%(図-1)で、概ね8割以上が男の産休を取得している。

(2) 育児休業

(a) 概要

育児休業は子の養育のための休業であり、産後1年以内に30日以上、できるだけ8週間以内にまとまった日数を取得することが政府主導で推奨されている。

なお育児休業期間中、育児休業手当金を受給可能。180日以下の場合には標準報酬日額の67%、181日目以降は支給率50%である。

(b) 制度の拡充

今年の4月の参院本会議で改正関連法が可決され、ひと続きで取らなければならなかった育児休業が、8週間以内であれば2回まで取得できるようになった。これにより配偶者復職の際にも柔軟な運用が可能となる。(2022年10月1日施行)

3. 出産前～育児休暇までの流れ

(1) 出産予定日2ヶ月前

昨年7月、上述のとおり当時の出張所長から休暇取得を勧めていただいた。フロアの人数は非常勤職員や委託業者を含めても7人。大きな負担を掛けてしまうのではという危惧はあったものの、当時の出張所長から全員でフォローする旨を言っただけだったので非常に助かった。

妻に話したところ大変喜んでくれた。職場の皆さん、事務所の皆さんに感謝するとともに、二人目出産は里帰りしない予定だったので、育休を取ってくれるのはすごく助かるこの事であった。

(2) 出産日～産後2週間

9月に第二子が誕生。陣痛は朝早くから始まり、男の産休制度を利用し、念願であった出産立ち会いをすることが出来た。妻は最初から最後まで非常に苦しうに、命がけでかわいい男の子を産んでくれた。本当に感謝してもきれない。助産師の方には、母子ともに健康で安産だったとあとから教えて頂いた。

育児休暇取得までは義理の両親に応援に来て貰い、休暇は産後3週間目から取得した。その理由としては、俗に言う「魔の3週目」がここから始まり、夜泣きが始まる乳児が多いからである。

(3) 産後3週目から

例として、一日の家族皆の行動を紹介する。

(a) 6:30

1歳の上の子が起床。皆で一緒に寝ているのでリビングまで連れて行き、ネットの動画で気を引いて、夜通し尽力してくれた妻を起こしに行くのを阻止する。

(b) 8:00

下の子起床し、泣き始めるのでリビングに連れて行ってミルクを飲ませる。妻にはもう少し休んでいて貰い、私が上の子にご飯を食べさせる。妻が起きてくるまでに、静かに洗

い物、ゴミ出し、片付け等を完了させる。

(c) 10:00

私が近所の児童館に上の子を連れて行く。イヤイヤ期（成長過程で自己主張が強くなり始める時期）に入っているので連れ出してくれて助かったと、後に妻から聞いた。私が上の子と出ている間、妻は下の子を入浴させてくれていた。

(d) 12:00

帰宅。上の子に昼食を食べさせ、全員で2時間ほど昼寝ののち、上の子を外で思いきり遊ばせ体力を消耗させる。妻にも体を休めてもらいます。晩ご飯を作っている間もひたすら遊ばせます。

(e) 18:00

夕食中は上の子が箸やフォークなどをうまく使えるように見守り、手伝う。

(f) 19:00

夕食後はお風呂をわかしながら食器洗い、わき次第入浴。私が上の子を入れてあげたかったのだが逃走するので妻が入れてくれていた。その間、私は洗い物、掃除、片付け等を継続。入浴後は服を着せて、お茶を飲ませて、歯磨きをさせる。歯磨き時に楽しんで貰うべく私が歌を歌うのだが、曲の好みがあるようで、好みの曲以外の場合は笑顔で歯ブラシを嚙んで抗議の意志を示してくる。

(g) 20:00

歯磨きの後は妻にお休みを言わせた後、私が上の子を寝かしつける。2歳が近くなるとそばに居るだけで寝てくれるのだが、ベッドに寝ていてもトミカの働く車の名前をつぶやいて一人で遊んでいた。その間妻は、リビングで下の子の寝かしつけをしてくれている。

(h) 21:00

上の子が寝たので妻の所に戻って来ると、妻が寝かしつけ上手なものあって、下の子は私が戻る頃には寝ている事が多かった。

以降はテレビを見つつ、『頑張ってくれてあ

りがとう』の気持ちを込めて、前日夜から一日中たくさん動いてくれた妻を一時間ほどマッサージしていた。二人とも寝るのは夜12時位であったかと記憶している。

4. 休暇取得で得られた知見

上の子は当時1歳だったが、正直その体力に付いていくのがやっとであった。さらに、下の子はなぜ泣いているのか分からなかった。休暇を頂き、毎日接したからこそ、初めは同じにしか聞こえなかった下の子の泣き声もなんとなく聞き分けられる様になった。今も毎日試行錯誤の連続である。

個人的な感覚で大変恐縮ではあるが、育児や家事は、「積極的に関わっていくもの」だと考えている。生まれた子がどうして泣いているのか？暑いのか？寒いのか？空腹なのか？最初は分からない事だらけであった。でも、泣いている子をどうにか泣き止ませたい。産後の妻に無理をさせてはいけない。必死に関わっていく内に、一つずつ分かるようになった。乳児は要求によって泣き声が違う、おむつの替えかた、喜んでくれる子守歌、上の子・下の子それぞれの泣き止ませ方、沢山のものが見えてきた。当然至らない部分もあって、妻に教えて貰ったことも随分ある。本当に感謝してもしきれない。

出産を終えたばかりの時は、普通に動くだけでも大変な状況で、交通事故全治1年と同じ状態である。そんな奥様のため、生まれてきたお子さんのため、職場のかたがたに背中を押してもらって頑張れることは、何物にも代えがたい尊いことであると考えている。この休暇を通じて、妻がどれだけ頑張ってくれているかを知り、もっと気に掛けるようになった。妻とは前以上にとても良い関係を築けている。また、子供たちの事も前以上にとても大切に感じるようになった。結果として、育児の休暇を取得することで家族全体の絆がぐっと強

くなったと感じている。

5. 現在の育児休業の課題

育児参加を促す育児休業であるが、男性職員の取得率は低い。政府全体で取得した男性職員は全体で29.0%、国土交通省においても28.3%と低調である(図-2)。

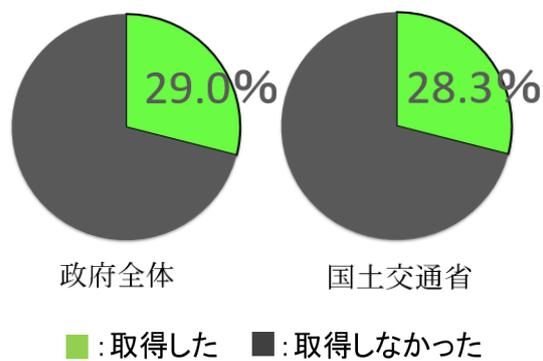


図-2 「育児休業」取得率

取得率が低い理由としては、①職場への遠慮、②長期間職場を空けることによる業務停滞への心配、③休業による収入減の3つが考えられる。

6. 育児休業取得率を上げるための取組

課題①②③への取組として、以下が挙げられると推察している。

(1) 課題①について

まず①であるが、私の場合は育児の休暇取得に理解が深い「非常に風通しの良い職場」であったため、出張所長のほうから取得を勧められたことで速やかに解決できたが、所属長等管理職員が率先して風通しの良い職場の雰囲気作りを進める事が最重要であると考えている。

(2) 課題②について

次に②については、不在時の業務引継書を作成し、職場の方々と綿密に打ち合わせることで不測の事態に対応した。

(3) 課題③について

最後に③については、育児休業を選択する限り回避不可であったため、年次休暇を代用

せざるを得なかった。長期的な育児休業取得は収入減がネックであるため、補填する制度拡充が取得率向上に直結すると推察する。

(4) 課題に直面している方へ

休暇を取りたいが、同じような悩みを抱えていらっしゃる方は今も多いと思う。今後出産計画がある方もいらっしゃるのではないだろうか。もし、昔の私のように不安に思っている方が居たら、まずは上司の方に相談してみることを強く推奨する。奥様を支え、お子様をお世話するのだという熱い気持ちを素直にお伝えすれば、課内でのカバー、他課の応援、必ず何か良い方策が見つかるはずである。

7. おわりに

私は制度を遺憾なく制度を利用した結果、たくさんの大切なことに気づくことができた。男の産休、育児休業、又は年次休暇。奥様とお子様のため、是非制度を使い倒して頂きたい。

参考文献

- 1) 内閣人事局 HP『男性職員による育児に伴う休暇・休業の取得促進』
- 2) 内閣人事局 HP『令和3年11月25日 内閣官房内閣人事局『国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップ』
- 3) 「夫の育休」が産後うつを救う！妊娠・出産のダメージをやわらげる【協力】をエーストレスチェックマガジン
(<https://www.altpaper.net/b/12989>)

謝辞: 本稿を纏めるに当たり、ご助言、ご指導いただきました関係者の方々に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。